

## 福祉の かたち

# 動物と触れ合い 前向きに

動物と触れ合うことで癒やしを感じたり、心を前向きにしたりする「アニマルセラピー」を導入する高齢者施設が増えている。

船橋市を拠点に活動するボランティア団体「アニマル&セラピー・グループ」は介護施設や病院、学校などを訪問し、動物と人のふれあいの場を提供している。近年、施設からの依頼が相次いでおり、現在は20名以上を擁している。

大六7の介護老人保健施設「千葉徳瀬苑」もその一つ。3年前から、入所者がセラピー犬と触れ合う「動物介在活

## 高齢者施設で導入すすむ



セラピー犬「サファイア」を連れ入所者と話す切替さん

動(AAA)や、治療の一環として行う「動物介在療法(AAT)」に取り組んでいる。月1回ほど、団体のメンバーが飼っているセラピー犬を連れて施設を訪れる。取材に訪れた日はドーベルマンやバグなど5頭が来訪車いすに乗った約30人の入所者たちはイヌが近づいてくる

と笑みを浮かべ、「おりこうさん」「俺も似たイヌを飼っていた」などつぶやきながら、頭をなでたりほおずりしたりした。看護・介護部長の地主貴美恵さん(8)は「なでたいという気持ちから、腕が伸びる。入所者もスタツフもピカイチの笑顔が出る。良い

ことづくめです」と話す。だ」と喜んだという。同苑の理学療法士、川口和己さん(24)は「好きという気持ちは、人の能力を引き出した」とその成果に驚いている。

60代のある入所者の女性は疾患による症状から、リハビリを拒否していたが、昔飼っていたイヌに似たセラピー犬とのAATで、意欲が高まり日常生活での動作が改善した。表情も豊かになり、女性の家族は「顔に光が差したよう

同団体代表の切替輝美さん(2)によると「団体を立ち上げた8年前は施設に動物が入ること一般的ではなかったが、徐々に動物セラピーが認識されるようになった。海外では医者が治療のためにペットを飼うようすすめるケースも珍しくないという。

「飼い主にも愛犬と一緒に社会活動に参加する喜びがある」と切替さん。同団体ではボランティアやセラピー犬を募集している。